

編集後記

2018年10月が統合10周年を迎えることを契機に、2017年7月に本機構史編纂が決定された。本機構史の前には、国際協力事業団（旧JICA）による「国際協力事業団25年史」（1974年～1998年）と、国際協力銀行（JBIC）による海外経済協力基金（OECF）に係る「海外経済協力基金史」（1961年～1999年）が編纂されており、本機構史は、その続編と位置づけられる。具体的には1999年4月から2018年9月までを対象としている。

この20年間は、両組織にとって、まさに波瀾万丈の時代であったと言える。旧JICAにとっては、「事業団」から「独立行政法人」へ脱皮していく歩みであった。また、OECFにとっては、日本輸出入銀行と合併してJBICが発足した後に、同行との分離と旧JICAとの統合を迎えた。

同じODA事業の実施を担当しているとはいえ、もともとの成り立ちや事業の性質が異なる面があった2つの組織がどのように融合し、発展してきたのか、「正史」として位置づけられるようになるべく正確に記すことを心がけた。そのため、第1部では、当時、実際に業務に従事した方々に、第2部では責任を有する担当部署の方々に原稿の執筆を依頼するとともに、資料編は担当部署のデータを基に作成した。外務省、財務省、JBICにも、データや事実確認等について一部ご協力を頂いた。最終的には、機構史編纂委員会を経て、機構史編纂事務局が文責を負う形でこれを作成した。

皆様に、これまでのJICAの来し方を正確にご理解いただき、これからの組織の発展を考えていくうえでの一つの有益な資料となれば幸いである。

2019年3月

機構史編纂事務局長

国際協力機構 上級審議役 岩切 敏